

2005年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日2006年1月31日

概要

実践団体・担当者名	「神奈川災害ボランティアステーション」 (担当者：鈴木幸一)	
連絡先	携帯電話 090-8170-6337	
プランタイトル	「少年防災ボランティア養成プロジェクト」	
目的	<p>大地震などの災害時、小学生高学年性は、「災害弱者」の範疇として、登校時であれば父兄が迎えに来るまで学校に留め置かれます。現状では、地域や家庭にあっても明確な、「活動」は求められません。彼らにそうしたパワーがないのでしょうか。</p> <p>私たちは、ボーイスカウトの指導者として、平成3年6月に発生した、「長崎県雲仙普賢岳噴火災害」では、神奈川の少年達と共に三度現地を訪問し、少年ならではの素晴らしい活躍で感謝されました。昨年の新潟水害や中越地震でも、「非常用炊出袋」を使った炊飯など地域の子供達が進んで奉仕してくれました。</p> <p>災害に備え、道案内、情報の伝達、炊飯、物資運搬、簡易包帯づくり、避難所の清掃など災害下にあっても、子供達が比較的安全に実施できる活動内容を事前訓練したうえで、「少年防災ボランティア」の、「身分証明カード」を発行することで、「社会性」を涵養することになり、災害はもちろん、日常の、「まちづくり」に大きく貢献することを期待するものです。</p>	
プランの概略	<p>学校や市民団体、災害ボランティア団体、青少年団体等が実施する、青少年を対象とする、「防災教育体験事業」に、「少年防災ボランティア養成プロジェクト」として、2時間程度の出前講習を実施します。</p> <p>認定インストラクター及び実施団体スタッフの協力を頂くなかで、会場内に、「道案内」、「情報の伝達」、「炊飯」、「物資運搬」、「簡易包帯づくり」、「避難所の清掃」等のコーナーを設け、参加する少年達は、「チャレンジシート」を持ち、各コーナーでチャレンジの上、スタッフより、「認め印」を押してもらいます。原則的には、全てのコーナーをクリアーすることですが、車椅子の少女などであれば、「道案内」のみでも、「少年防災ボランティア」として認め、「少年防災ボランティア証明カード」を発行します。</p> <p>希望する、「参加スタッフ」で、中学生以上の年代であれば、インストラクターとして認定し「少年防災ボランティア証明カード」を発行します。</p>	
プランの対象と参加人数	小学校高学年 「少年防災ボランティア」	328人
	中学生以上 「少年防災ボランティア・インストラクター」	31人
	成人 「少年防災ボランティア・コーディネーター」	108人 (15会場)
実施日時	平成17年5月1日から 平成18年1月30日	
主な実施場所	神奈川県内、新潟県内	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	日本ボーイスカウト横浜第96団 キッズガーデン 横浜市立伊勢山小学校サマースクール 日本ボーイスカウト鎌倉第8団 横浜青年会議所 ひとづくり室 市民との協働推進委員会 東京ガス株式会社 I love つづき 日本ボーイスカウト横浜第73団 ガールスカウト神奈川連盟第7団

連携したきっかけ・理由	他の青少年活動、防災教育等で面識があったため。実施後、参加者の加盟団体より開催依頼を受けた。主催団体の経験が乏しいため、スキルを求めている。
連携団体へのアプローチ方法	パンフレットやメールでのご案内 口コミ 主催者からの申し入れを受け、日程が合えば協力した。
連携団体との打合せ回数	必ず一回以上は行った。 平均して三回位。
連携団体との役割分担	出前講習として、「少年防災ボランティア養成プロジェクト」の実施について、全てを当会が実施し、参加者の募集、全体運営は主催者が実施した。

プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	1~2名
	外部スタッフの総人数	2~10名
	主なメンバーの 役職・役割	「防災教育体験事業」各責任者 「少年防災ボランティア養成プロジェクト」責任者鈴木幸一 プロジェクトの実施 当会スタッフ及び主催者側スタッフ 企画 主催者側スタッフ 渉外 主催者側スタッフ 広報 主催者側スタッフ
プラン立案に要した 日数・時間	立案期間	1991年6月3日 ~ 2005年3月31日 「少年防災ボランティア養成プロジェクト」については、長崎県雲仙普賢岳噴火災害から、少年達との各種災害ボランティア活動を通じてプランを温めてきた。
	立案時間	2時間×10回（暇があると考えていた。）
	上記のうち打合せ回数	20回（友人や一般の方達にマーケットリサーチを試みた）
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	<p>災害弱者として、「防災教育」を受ける機会の少ない子供達にもチャンスを与える。火気を使用するケースもあり、参加者及び主催者の安全に細心の留意をした。実際に行ってみる内容を中心に、優しく易しく楽しく伝える。参加者全員が楽しい思い出になること。準備やプログラム進行に手を惜しまないこと。主催者、スタッフ、参加者など、共通の目的を持つことから、心は平等であること。「少年防災ボランティア」講習終了後も、参加した子供達に社会参加の意識を持続させる。社会運動であることを念頭に、報道機関の取材申込が有れば、最大限協力する。</p>	
プラン立案で 苦労した点	<p>参加者の枠をどのように設定したらよいか。 指導種目の選択 看板類の制作 従来の防災関係のイベントとの差異、特徴をどのように示すか。</p>	

実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	1～2名
	外部スタッフの総人数	1～20名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 鈴木幸一（神奈川災害ボランティアステーション） 企画演出 同 会場準備 同 渉外 同 資料制作 同 広報 同 事務 同
準備に要した日 数・時間	準備期間	2005年4月1日～2005年5月1日（第一回目） 2回目以降は、出前キットが完成していたため、ほとんど無し
	準備総時間	2時間×1回の買い物程度
	上記の内打合せ回数	1～5回
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	横浜市青少年育成協会 教員個人
	どのように働きかけたか	会議での参考資料として情報提供 口コミ
	結果	高い関心を示してくれたが、年度内の開催は困難
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	神奈川災害ボランティアネットワーク かながわ防災ギャザリング2006 ボーイスカウト横浜南央地区 みうらフォーラム（横須賀） 防災とボランティアのつどい（東京）
	どのように働きかけたか	会議や展示会での参考資料として情報提供 口コミ
	結果	好評だが、現実的な実施は困難。長期的に見れば採用の見通しは明るい。地域で行う防災訓練の一環として、良いプランであるとの印象が残っている。
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者・ PTA組織名	直接的には無いが、間接的に浸透していると思う。
	どのように働きかけたか	口コミ
	結果	不明
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	機材：天幕、椅子、テーブル、看板、ボード、炊事用具。 教材：「少年防災ボランティア養成プロジェクト指導マニュアル」、チャレンジシート、非常用炊出袋、包帯製作用シート、身分証明証

	入手先・入手方法	<p>機材：天幕、椅子、テーブル、炊事用具は備蓄品を活用。 看板、ボードは購入</p> <p>教材：「少年防災ボランティア養成プロジェクト指導マニュアル」、チャレンジシート、非常用炊出袋、包帯製作用シート、「少年防災ボランティア証明証」は購入</p>
	機材・教材選定の理由(なぜこの機材・教材を選んだのか)	<p>機材：実践的講習とわかりやすい掲示に必要</p> <p>教材：専用教材の必要性があった。リサイクル品の活用等</p>
参加者の募集	募集方法	「出前講習」のため主催者がパンフレットやインターネット等で募集。
	募集期間	各講習前、2週間から3ヶ月
	参加予想人数	2005年度 約600名
	実際の参加人数	467名(成人指導者も含む・1月31日現在)
	募集方法の成功点	主催者募集のため、養成人員が確保できた。
	募集方法の失敗点	当日申込方式で、台風の襲来による予定参加者の減少。関連イベント(空手の昇級試験前の実施)による参加者の減少。
準備で苦労した点・工夫した点		<p>資材・機材の量が膨大になることから準備が大変だった。見ても美しい「看板類」を整備するには、初期投資が掛かるが、一旦作ってしまえば数年は使えるので効果が高い。</p> <p>資料は、カラー印刷を多用したが、印刷に掛かる経費と時間が膨大になった。</p>

タイムスケジュール

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2004 11月	プラン立案		
12月	同		
2005 1月	同		
2月	同		
3月	同		
4月		看板類の作成 帳票類の作成 地域への働きかけ	
5月			5/1 日本ボーイスカウト横浜第96団 5/13 日本ボーイスカウト鎌倉第8団
6月			
7月			7/16 川崎井田子ども文化センター 7/21 伊勢山小学校サマースクール
8月			8/6-7I Love つづき「防災キャンプ」 8/20-21 はまっこ「サバイバルジュニア」 8/28 東京ガス「災害ボランティア見本市」
9月			9/18 キッツガーデン
10月			10/30 日本ボーイスカウト鎌倉第8団
11月			11/6 日本ボーイスカウト加茂第1団 11/20 日本ボーイスカウト横浜第73団 11/26 日本ボーイスカウト鎌倉第8団 11/27 空手フィットネス倶楽部
12月			
2006 1月			1/14-15 かながわ防災ギャザリング 1/22 ガールスカウト神奈川支部第7団 報告書作成

実践の詳細 【A. 素材】(メインとなる活動を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	「少年防災ボランティア」 について	「非常用炊出袋」を使った炊 飯活動	簡易包帯づくり	帰宅困難者への道案内
実施日	1日目の前半			
所要時間	45分			
達成目標	災害発生時の安全確保と、 過去の災害で役立った少年 達の役割を知る。	「非常用炊出袋」に正しく 米と飲料水を注ぎ、輪ゴムで 止め炊飯の準備ができる。	洗濯したシーツを裂いて 「簡易包帯」を完成する	帰宅困難者に、的確な「道 案内」が出来る。
生成物		「非常用炊出袋」によるご飯	簡易包帯	
進め方 (箇条書き)	災害発生時に自分や家 族の身を守る方法を知 る。 過去の被災地で役立っ た少年達の力とその活 動内容。	じょうごを用い、「非常 用炊出袋」に米を線まで 注ぐ。 飲料水を線まで注ぐ。 輪ゴムで縛る。 バケツに入れて運ぶ。 炊飯は危険大人の仕事。	全員、手を洗う。 シーツにハサミで包帯 幅の切れ目を入れる。 静かに裂く。 丁寧に巻く。 ビニール袋に入れる。 救護スタッフに届ける。	帰宅方向や警察、消防、 病院などの場所を案内 する。 案内できなければ、帰宅 困難者に地図を見せて も良い。
ツール (特別に用意した もの)	白板、看板 被災地で活動する少年達 の写真	「非常用炊出袋」 米、飲料水 ペットボトルじょうご 一合ます、プラバケツ	洗濯したシーツ ハサミ ビニール袋	学校で使っている地図
場所	総合訓練エリア	非常炊飯エリア	救護訓練エリア	案内訓練エリア

タイトル	被災地での命に関わる情報の伝達。	飲料水や救援物資運搬	避難所の清掃活動	初期消火
実施日	一日目の後半			
所要時間	45分			
達成目標	倒壊した家屋や切れた電線など危険な中で、少年達の役割は「伝達」の意義を知る	災害でライフラインが停止した際の飲料水の大切さを知る。	多忙な大人達を補助して、清掃することの大切さを理解する。	小さな火事なら消火器や水で鎮圧できることを知る。近くの大人に知らせる。
生成物		「飲料水」		
進め方 (箇条書き)	倒壊した家屋の中を注意深く観察し、人がいれば、警察官や消防官に知らせる。 ガスのにおい、煙などが有れば、近くの大人に知らせる。	給水タンクから、飲料水の支給を受け、プラバケツで丁寧に運ぶ。 飲料水の大切さを学ぶ。 ・200ccで、一食分の炊飯 ・100ccで、一回分のミルク ・200Lで、透析一回分	避難所内は不潔になることを説明する。 避難生活が続くと抵抗力が落ち病気に成り易くなることを理解する。 清掃の手順を知る。 ・濡れ新聞紙を活用する。	(火)ボードを火災に見立て、バケツの水を掛けて鎮火する。
ツール (特別に用意したもの)	白板、看板	プラバケツ 訓練用水 看板	ほうき、ちり取り 濡れ新聞 ビニールゴミ袋 看板	プラバケツ 訓練用水 看板
場所	情報伝達エリア	運搬訓練エリア	生活訓練エリア	消火訓練エリア

標準的なプロジェクト 前半45分。休憩15分。後半45分。終了式兼非常食試食会

実践後

参加者へのアンケート結果	<p>なにか、あったときは、お手伝いしたいです。</p> <p>私は、鈴木さんの話を聞いて大きくなったら道案内など人助けをしたいと思います。わかりやすく話をしてくれてうれしかった。私も道案内や救助活動で頑張りたいです。僕は困っている人を助けたいと思いました。大人になっても聞いたことをいかしていきたいと思います。</p> <p>大きくなったらボランティアになりたいと思いました。いろんな人を助けたいです。また、参加したいです。</p> <p>自分の知らない人でもホータイを作って人を助ける。自分たちが出来ることをする。少しいくつしたけれど子供でもこんなことが出来るんだな一と思いました。実際に困っている人がいたら助けてあげたいです。</p> <p>出来ることをがんばる。</p> <p>僕たちの作った包帯で一人の命でも助かれれば嬉しい。</p>	
成果として得たこと	<p>「防災」をキーワードに参加した少年達に大きな社会性が育まれたこと。</p> <p>災害発生時に、困っている人たちのお役に立てるという自覚は、少年達のスタートしたばかりの人生に大きな影響を与え、少年期に陥りがちな、「いじめや犯罪」に走ることを抑止すると考えられる。</p> <p>参加した少年達の真摯な取り組みは、災害に無防備な大人達に、大きく警鐘を鳴らしていると感じたのは、スタッフ全員の偽らぬ心と思った。</p> <p>災害への備えが確実に育っている。</p>	
成果物	<p>(学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。データがあればデータファイルを貼付して下さい。)</p> <p>「少年防災ボランティア養成プロジェクト・マニュアル」 「少年防災ボランティア養成プロジェクト・チャレンジシート」 「かながわレスキュースコップ・プロジェクト」 「少年防災ボランティア養成スタッフ応募用紙」 「緊急非常炊出システム」</p>	
広報の方法	広報した先	各地で行われる、「防災活動展」で、取材に訪れたマスコミ陣にも情報を流していた。
	広報の方法	「少年防災ボランティア養成プロジェクト・マニュアル」の配布や説明。
	取材にきたマスコミ	NHK国際放送局
	広報された内容(掲載された記事・番組等)	12/28 スマトラ沖地震津波から一年を迎える、NHK特集番組の中で、被災地の復興の様子に加え、日本国内での対策の一つとして、ボーイスカウトの少年達を対象とした、「少年防災ボランティア養成プロジェクト」の様子がNHK国際放送局を通じて、国内及び全世界に放映された。
	成功点	キャリアワールドの推薦かと推測されます。スマトラ沖地震津波から一年という時期と重なり、取り上げられることが出来た。多くのスカウト指導者が協力して頂き、大がかりな設営が可能となり、迫力ある取材が出来た。
	失敗点	突然、会場が変更となり、関係者にご迷惑を掛けることになった。(結果的には、臨機応変な対応で無事終了した。) テレビ取材は、あまり経験の無いことなので、主役である子供達が最後は疲れ切ってしまった。
全体の感想と	初めての、「出前講座プロジェクト」としては関係者のご努力の結果、多くの会場が確	

<p>反省・課題</p>	<p>保されたことで、インストラクターも含めると、五百人以上の参加を得るなど、成功裏に終わったと思う。</p> <p>プロジェクトを終了し、「少年防災ボランティア身分証明カード」を胸にした少年達の目の輝きが忘れられない。終了式で涙する主催責任者もいた。次年度も開催したいとの声があちこちで挙がった。見学の団体代表も高く評価していた。</p> <p>開催を通じて、学校現場が抱える、「社会体験学習」にも対応する優れたプロジェクトとの自信を得た。実績を基に、防災関係者各方面に対し案内書を配布していることから、来年以降の開催が予想される。東京都文京区のNPOなどが推進したいとの打診を受けている。</p> <p>プロジェクトの内容が簡単であり、中学生以上であれば誰でもインストラクターになれる。元気な高齢者の社会参加にも貢献する。登録した子供達に社会性が育まれ、地域から、「いじめや犯罪」が減少する切っ掛けになれば嬉しい。</p> <p>費用対効果を考えれば微々たるものであるが、当面は、「資金確保」が問題である。</p>	
<p>今後の予定</p>	<p>来年度以降の進め方</p>	<p>所属する、横浜市青少年育成協会「学校・地域人材システム委員会」を通じて、学校の社会教育体験授業として推進したい。</p> <p>青少年団体、災害ボランティア団体等に対し、更にアプローチを続ける。</p> <p>それぞれの学校や団体が自由な発想で展開できるよう支援する。</p>
<p>自由記述</p>	<p>是非実施してみたい 取り組み</p>	<p>企業や市民からご支援を頂き、現在、神奈川に住む、高校生年代の希望するスカウトを対象に、災害や豪雪に備える、「レスキュースコップ」を無償貸与している。先日、豪雪の長野県栄村に、横浜市栄区産の新鮮卵とともに、12本の、「レスキュースコップ」を直接お届けして喜ばれた。資金の確保が出来れば、全国の高校生を対象としたい。</p> <p>学校現場では、ゆとり教育の一環として実施する、「体験学習」の場を模索しているのが現状です。本プロジェクトは、「サーカス興業」の如く、防災実践教育の展開に必要なマニュアルと専用資材を携え、クラス単位の人員を2時間ほどで、「少年防災ボランティア」として育てるばかりでなく、社会からの信頼の証として、「少年防災ボランティア証明証」を提供するシステムは、参加した子供達の人生に大きな影響を与えることを感じました。</p> <p>これは青少年指導者として大きな喜びであることは言うまでもありません。</p> <p>こうした、チャンスを与えて頂いた、チャレンジプランスタッフや選考委員の皆様、内閣府等関係者に感謝申し上げます。</p>

